

労力不足に対応した高齢者活用のための シルバー人材センターにおける農作業研修の評価

農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

農業分野では雇用労働力が増えている。県内で利用が増加しているシルバー人材センターでは、個々の農家がシルバー人材センター会員（以下、シルバー会員）へ統一した農作業の指示を行っておらず、産地として効率的な体系になっていない。一方、利用農家は農作業ができるシルバー会員の増加と能力向上を期待している（普及に移す技術第 82 号、参考資料）。そこで、利用農家の満足度向上のための一手段として、シルバー会員が農作業研修を受けた場合の評価について明らかにしたので参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 生産者の「高齢者が行う農作業に対するイメージと研修後の評価」
 - a 研修会に参加した生産者の「高齢者が行う農作業」に対するイメージは、研修後に全評価項目で「普通」以上と評価が高くなっている。特に、「仕事に対する姿勢」に関して評価が高い（図 1）。
 - b 研修会へ参加した生産者の 92 % が、このような研修会を行うことにより、高齢者補助労働力の拡大につながると考えている（図表略）。
- 2) シルバー会員の「農作業に対する不安と研修後の評価」
 - a 研修会に参加したシルバー会員の 43 % は農作業に対して不安があった（図表略）。この研修を受けて、不安が解消されたと答えたシルバー会員が多い（表 1）。
 - b 研修会に参加したシルバー会員は農作業研修に対する評価もおおむね「有意義であった」との評価である（表 2）。
 - c ブルーベリーの収穫作業では、収穫回数が進むにつれ収穫作業の精度が上がっており、研修の効果がある（図 2）。
- 3) 農作業研修会を開催することにより、生産者は高齢者が行う農作業に対して評価が高まった。また、シルバー会員も研修を通して、農作業に対する不安が減り、作業精度も高くなる。以上より、農作業研修の開催は、シルバー人材センター利用農家の満足度向上だけでなく、働き手のシルバー会員もともに満足度が高まるような労働力需給調整の一方策として有効である。

3 利活用の留意点

- 1) シルバー人材センターを活用した臨時的な補助労働力の推進や高齢者の雇用場の拡大のための参考データとして活用できる。
- 2) 農作業研修会は、シルバー会員の所属する地域で雇用需要がある品目の農作業を体験してもらう内容である。作業内容の説明を行った上で体験してもらい、体験中にも指示どおりかどうかの確認を適宜行った。
- 3) 研修を行ったのは、名取市シルバー人材センター主催の「ほうれん草・小松菜の調整・袋詰め作業研修会」（参加人数：生産者 6 名、シルバー会員 10 名、平成 19 年 4 月 10 日及び 12 日実施）、大崎市シルバー人材センター主催の「ブルーベリー収穫・調整作業研修会」（参加人数：生産者 9 名、シルバー会員 16 名、平成 19 年 7 月 5 日実施）である。
- 4) 農作業研修を行う際には、産地としての雇用需要がある品目、高齢者の労働負担の程度等に関係者で検討してから実施することが望ましい。

（問い合わせ先：農業・園芸総合研究所情報経営部 電話 0 2 2 - 3 8 3 - 8 1 1 9 ）

4 背景となった主要な試験研究

1) 高齢者人材資源が農業に参入できる要件の解明と高齢者向け作業指標の作成

(平成17～19年度)

2) 参考データ

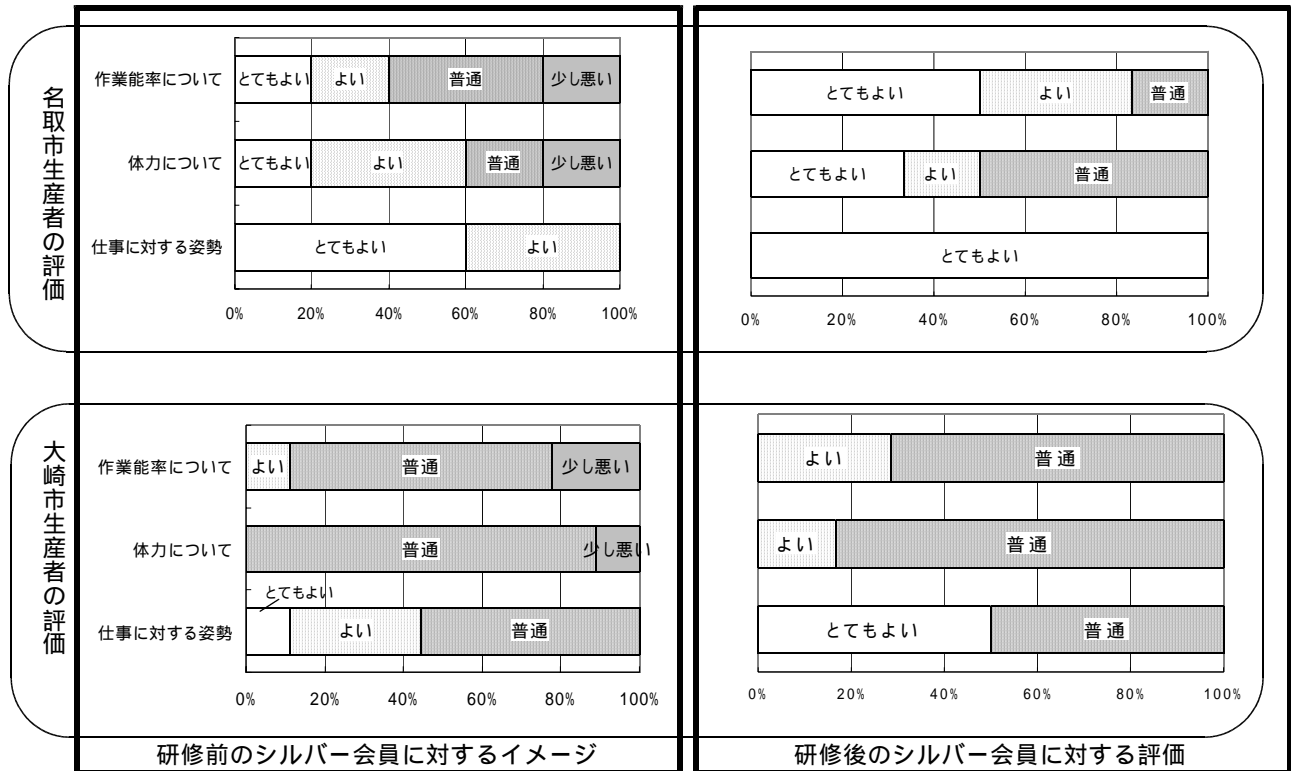


図1 生産者の「高齢者が行う農作業」に対するイメージと研修後の評価

注) 農作業研修前後にそれぞれアンケート調査を実施した結果である

表1 シルバー会員の研修後の農作業に対する不安

	全然不安がなくなった	少し不安がなくなった	どちらともいえない	あまり不安が減らなかった	全然不安が減らなかった
名取市シルバー人材センター会員	0	4	1	0	0
大崎市シルバー人材センター会員	0	1	2	0	0

注) 農作業に対して「不安がある」と回答したシルバー会員への調査

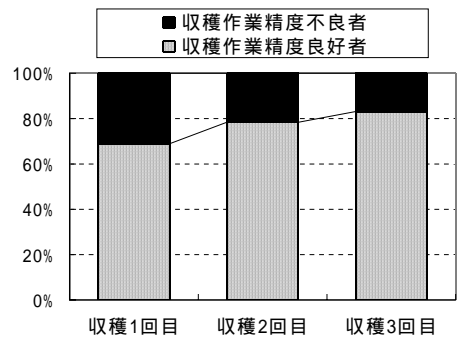


図2 シルバー会員のブルーベリー収穫作業の精度

注) 「精度不良者」とは、収穫物に未熟果や軸付果の混入が多かったシルバー会員。

表2 シルバー会員の研修会の評価

	とても有意義である	少し有意義である	どちらともいえない	あまり有意義ではない	全然有意義ではない	無回答
名取市シルバー人材センター会員	4	4	2	0	0	0
大崎市シルバー人材センター会員	6	6	1	0	0	5

3) 発表論文等 なし